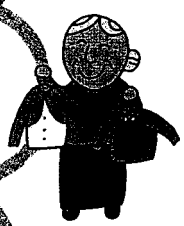


- 買い物に行ける
- 畑で野菜づくり
- 若い人に料理を教える
- お客さんにお茶を入れる
- 着たい洋服を選ぶ



おきたいの美現

- 友達と将棋をしたい
- 家族と旅行したい
- お刺身が食べたい
- 孫と遊びたい
- 晩酌前に風呂に入りたい



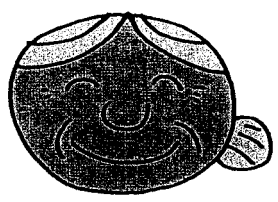
生活の継続性

- 朝はゆっくり起きて、お茶でも飲んでから...
- 行きつけの美容院に髪を切りに行く
- ご近所の〇〇さんちへ遊びに行く
- 大好きな盆栽の手入れをする



リラックス

smile

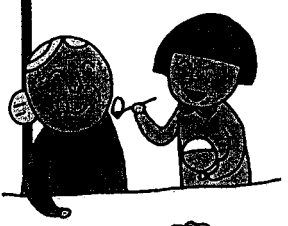


「安心」

ほっとする

落ち着く

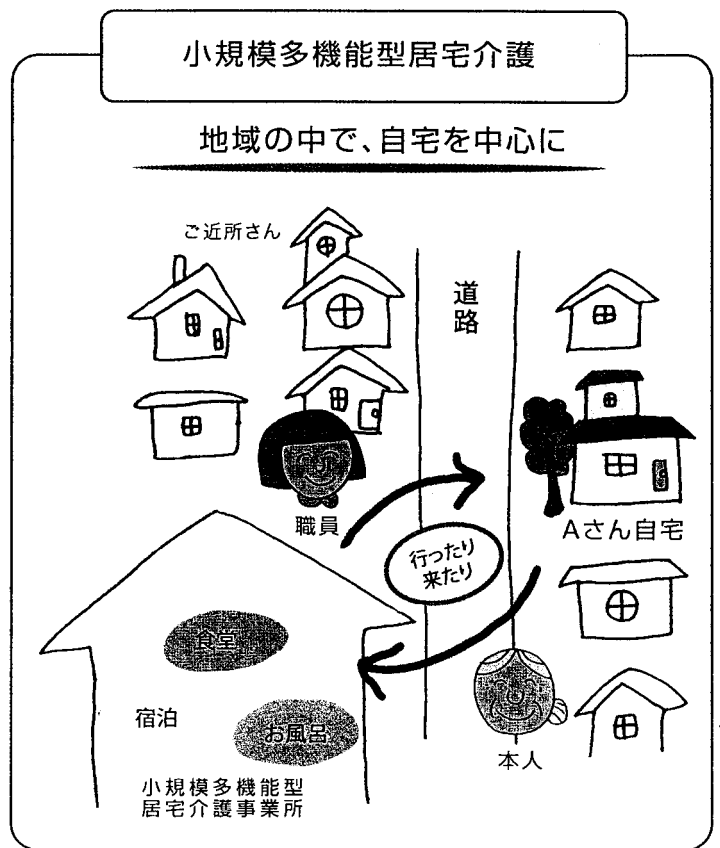
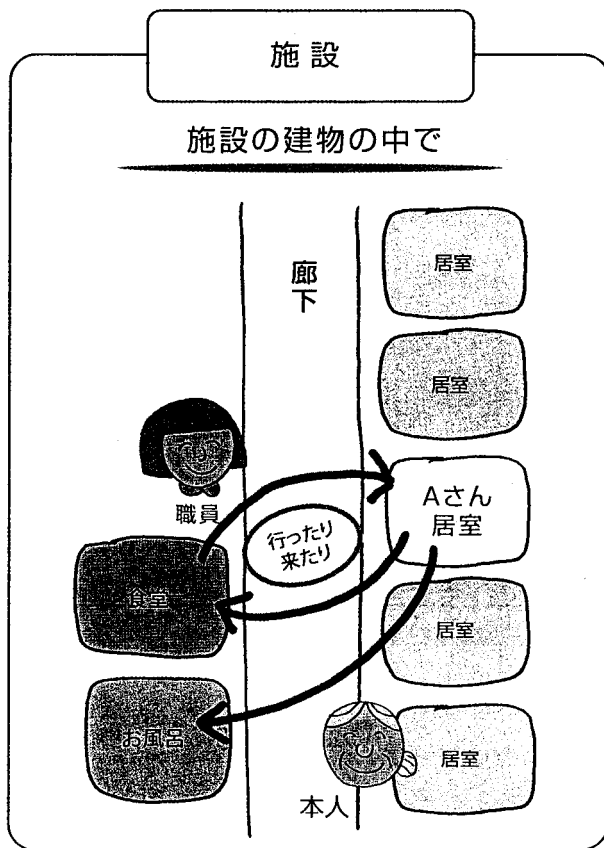
- 食事や排泄、入浴ができなくなって困る
- 家族：体がぼろぼろ、もう少し楽をしたい
- 本人：家族に迷惑をかけたくない
- トイレ、食事、外出など、できないことの手助け
- けがをしないような見守り



介護の安心

一人ひとりに合った支援をしていくには、お年寄りの本当の思いや望みをくみ取ることが大切だと考えています。一人ひとりに寄り添い、時間をかけて丁寧に支援していきます。介護が必要になっても、安心できる環境の中で、これまで築き上げてきた家族や地域社会との関係を断ち切ることなく暮らし続けることを大切にします。

自宅に24時間・365日の安心を届けます



小規模多機能型居宅介護は、施設の在宅版のようなサービスです。施設の居室を自宅と捉え、廊下は道。施設の職員が居室にお邪魔するように自宅に訪問したり、日中のつどいの場として食堂へ集まるように事業所に通います。「通い」や「宿泊」「訪問」といったあらゆる機能を使って、自宅での生活を支えています。

サービス概要

「通い」を中心に、ご本人の様態や希望に応じて、「宿泊」「訪問」といったサービスを組み合わせて、「自宅で継続して生活するために」必要な支援をしていきます。

- 「通い」で顔なじみになった職員が「宿泊」や「訪問」の際にも対応します。
- 環境の変化に敏感なお年寄り（特に、認知症の方）の不安を和らげることができます。

だから

ご家族も安心して
ご利用いただけます。

ご本人やご家族の些細な変化に
気づくことができます。

状況を把握している職員が対応
するので、いざというとき
心強い味方です。

地域密着



小規模



多機能

住み慣れた地域



その人らしい「生き方」「暮らし方」の実現

訪問 通い 宿泊



困ったときに
柔軟なすばやい対応

介護が必要になっても
自宅で安心して
生活したい。

住み慣れた地域
自宅の近く

事業所

ひとつの
場所で
いろんな
サービス

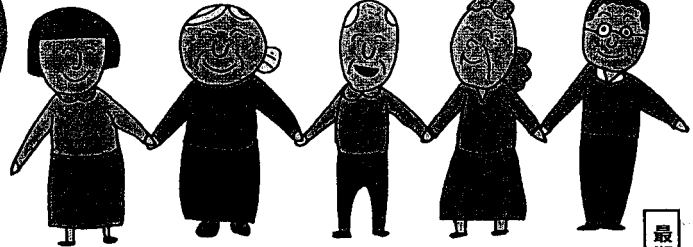
事業所の職員

お年寄り

家族

友人・知人

地域の人



出会い

24時間・365日対応

最期

24時間・365日の安心

時間の流れ

困った…
どうしよう…

わかって
くれる人が
いた

心配…
トイレ、お風呂が

助かったあ～

友達と今まで通り、
お茶のみしたい！

やった！
できた！

家族と一緒に温泉
旅行に行きたい！

温泉に
入れた！

いい人生
だったなあ…

「暮らし」を支えるということは、24時間・365日、切れ目のない支援を「安心」とともに届けるということです。「その人らしい暮らし」を実現するためには、お年寄りのことを良く知っている家族やご近所さん、友人の方などと一緒に、地域の中で、継続的な支援を考えていきます。

いろんな困ったに対して小規模多機能型居宅介護では、「通い」「宿泊」「訪問」

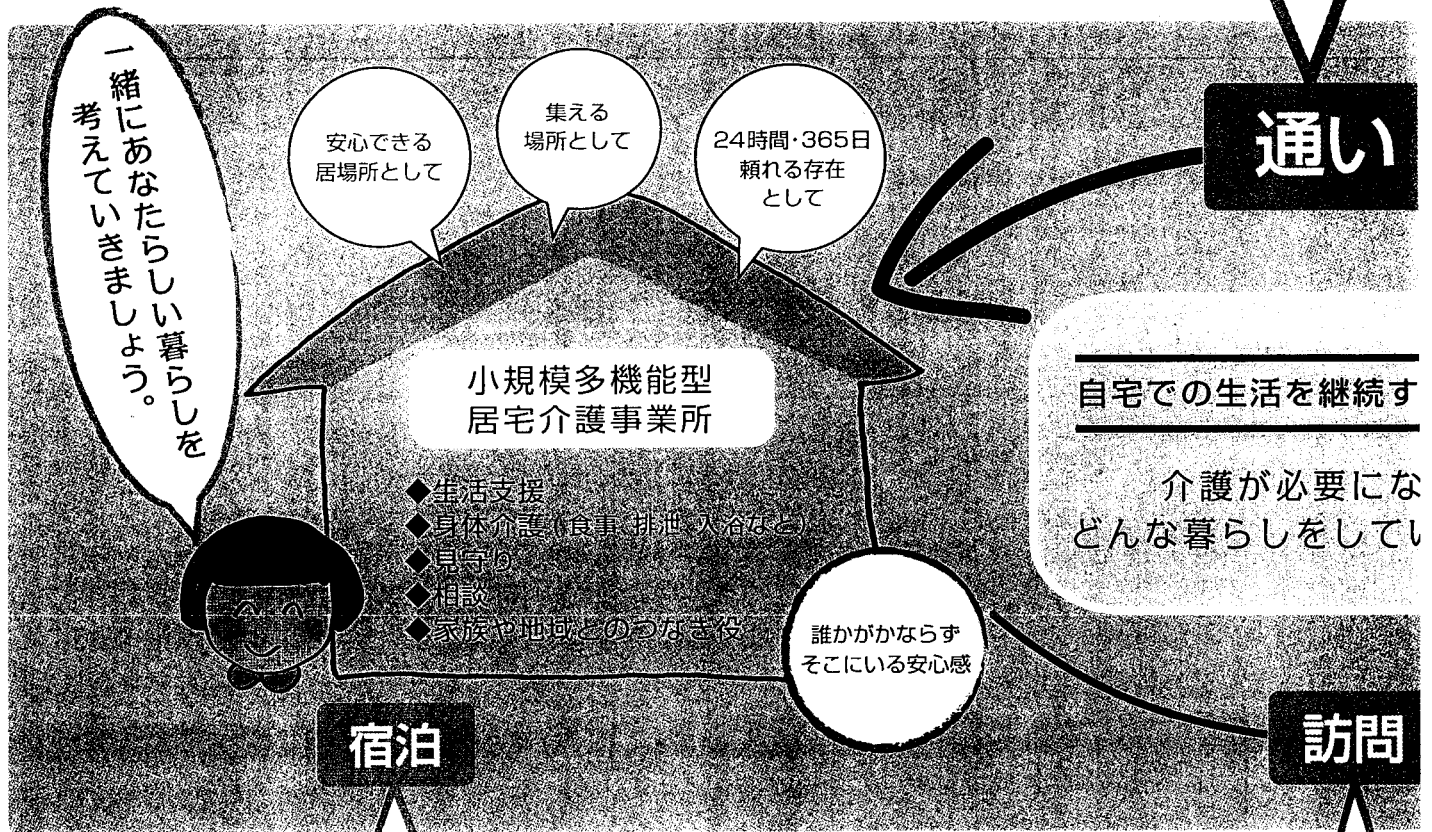
小規模多機能型居宅介護における「通い」「宿泊」「訪問」

小規模多機能型居宅介護では、「通い」「宿泊」「訪問」といった各サービスの内容は細かく定められてはいません。一人ひとりの暮らしが異なるように、支援の内容も異なります。

現在の制度では、「通い」を中心に生活を支える仕組みになっています。生活や暮らし全体を通しての流れの中で困っていることは何か、自宅での暮らしを成り立たせるために必要なことは何かを見極め、柔軟に支援していきます。

一人ひとりの思いやこれまでの生活スタイルに合わせた支援や時間の過ごし方。

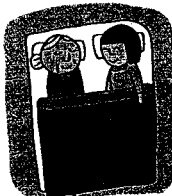
- 日常生活支援 (身体介護、生活介助など)
- 仲間づくりの場として
- いろいろな人と交わる場として
- 生きがいがづくりの場として



自宅での過ごし方と落差がないように。

「通い」を利用している方が、これからも家で生活することを重点におき、なるべく自宅での過ごし方と落差がないように支援していきます。その時々様態に合わせて緊急時にも対応します。

たとえば、……
家族が病気になったとき……すぐに利用できる



回数も支援する内容もひとそれぞれ..

「通い」だけでは支えきれない時間帯やさまざまな支援を、その延長線上として、その人の「暮らしぶり」に合わせて支援していきます。

たとえば……
夜中に「おじいちゃんがベッドから落ちた!」
電話一本でかけつけます!

